

変革への挑戦

ITツールを導入する先行企業のケース・スタディ

経営課題を解決する方法の1つにシステムのIT(情報技術)化があります。しかし、導入による効果はあるのか、どのように取り組んでいるのかなど疑問もあるはず。そこで、実際にIT化に取り組んだ会員企業の実例をご紹介します。

(株)エクス・アドメディア

(株)エクス・アドメディアは昭和61年2月に、各種の展示・イベント・TV・舞台の企画、デザイン設計・製作施工を扱う代理店として起業しました。社業の発展に伴い、平成6年にはさいたま市(旧浦和市)に製作工場を開設。代表取締役の中村俊宏氏を中心に、「新しいこと」＝「おもしろいこと」をモットーに、常にチャレンジを続けています。

》課題は案件ごとの運営管理効率化

各種イベントの運営などを手掛けるにあたっては、必要となる製作物の種類や、材料購入、異なる業種・業態企業との連携などが必要となります。こうした煩雑な業務の運営管理を、いかに効率的に、かつ属人的にではなく会社全体でできるようにするか。効率化で生まれた時間や労力を“提案力ある制作”にあて、より生産性の高い“事業展開”と両立するかが、同社にとっての課題でした。

そこで、「間接業務の効率化と直接業務への労働力投入」や「受注情報やクレーム情報の共有化」などをIT戦略として明確にしながら、会計ソフト「Freee」やグループウェア「NI Collabo」などの各種ツールを導入。また、受発注案件ごとの粗利などを見える化する独自の基幹システムを構築しました。

》「身の丈IT診断」で苦手意識を克服

各種ソフトの導入により業務効率化が進む一方で、一部の社員にとってはITソフトへの苦手意識がはっきりと表れました。

商工会議所「身の丈IT支援」を活用して課題解決・業務効率化！

Introduced IT tools

- ◆ 「SAI-デジ」パッケージ (RPA, OCR, ストレージ, サポート)
- ◆ 会計ソフト「Freee」
- ◆ グループウェア「NI Collabo」
- ◆ 受発注案件管理システム (独自システム)

DATA

住所 ▶ さいたま市南区内谷4-11-26

TEL ▶ 048-837-5460

H P ▶ <https://www.ex-ad.co.jp/>

事業内容 ▶ 各種イベント企画・運営、
美術装飾デザイン・設計・
製作



こうした実態を踏まえながらも、やはり社員の誰もがITソフトを活用できる体制を構築したいと模索する中、さいたま商工会議所の「身の丈IT診断」の記事を目にしました。

早速、このサポートを利用して、「自社で何がIT化できるのか」、「ITへの苦手意識の克服」などの課題解決にチャレンジすることとしました。

》「SAI-デジ」によってメリットが明確に

診断を進める中で浮き彫りとなったのは、ITソフトによる効果を社員が実感できていないことから苦手意識が生じる、という点でした。

当時同社では、会計ソフト「Freee」と受発注案件に係る独自の基幹システムへ売上や費用など重複した内容の入力を手作業で行っており、手間と入力ミスが生じていました。

そこで、新たに「DXツール SAI-デジ」の「RPA」を導入し、業務の自動化を進めました。その結果、月50時間を費やしていた業務が2.5時間で完了するなど、社員間で大きなメリットが見えるようになり、併せて業務効率化を実現しました。

「いいものを作りたい！」という情熱を持った仲間と支え合いながら、苦しみつつも新たなチャレンジを楽しんでいます。日進月歩のITツールを活用し、創造性豊かな仕事ができる環境を整え、新しい風を吹かせるべく歩んでいきます。



入力業務の自動化など社内デジタル化を中心的に進める
高橋 ふみき氏



空間演出に係る美術装飾の製作現場